

第1学年 道徳学習指導案

日 時 平成20年9月26日(金) 5校時
対 象 男4名 女2名 計6名
指導者 第1学年担任

- 1 主題名 たすけあうところ〔友情・信頼、助け合い2－(3)〕
- 2 資料名 くりのみ(出典：学習研究社1年「みんなのどうとく」)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第1学年及び第2学年の指導項目2－(3)は、「友達と仲よくし、助け合う。」となっている。友達関係の基本とでもいうべき信頼と友情及び助け合いの精神を育てようとする内容項目である。これは、主に、第3学年及び第4学年の内容項目2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」に発展し、さらに第5学年及び第6学年の内容項目2－(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」に発展していく。

豊かな友達関係を築くためには、互いを認め合い、助け合い、理解し合い、信頼感や友情を育てることが大切である。そのためにはまず、相手の立場になって考えるという思いやりの心がなければならない。また、人と人との信頼は、相手への誠実さがあって保たれるものであり、打算的になったり利害に走ったりしては、友情は育たない。思いやりの心を持ち、信頼し、助け合うことによって、人間関係がより深められていくのである。

この時期の児童は、幼児期の自己中心性がまだ残っているため、相手の立場を認めたり、理解したりするなど、他の人の人格を尊重することはまだ難しい面がある。しかし、学校での規則的な生活や友達との遊びを通して、自己中心的な考えが少しずつ減少し、友達と一緒に取り組む喜びが分かりつつある時期でもある。そこで、この時期に仲よくすることの心地よさや大切さに気付かせ、相手の立場を考えてお互いに助け合おうとする気持ちを育てていくことは意義のあることである。

(2) 児童について

学級の児童は、少人数の上、全員が同じ児童館出身ということもあり、みんな仲よく生活している。しかし、自己中心的な考えから、わがままな言動をとったり、周りの人のことを考えずに行動してしまったりすることがよくある。また、少しでも自分が有利な立場に立とうとする傾向も見られる。相手の気持ちを考えて、助けたり励ましたりする思いやりの心が十分に育っているとはいえない。

そこで、相手の立場に立って考えることや相手を思いやることについて考えさせ、特に困っている時には進んで相手を助けることの大切さについて理解を深めていきたい。そして、「友達っていいな。」「友達って大切なんだな。」「ぼくもいい友達になりたいな。」という、友達づくりの核となる心を児童の中に育てていきたい。

(3) 資料について

寒い北風の吹くある日、おなかをすかせたきつねと友達のうさぎが食べ物を探しに行く。きつねはどんぐりをたくさん見付け、おなかいっぱい食べた後、残りを枯葉で隠す。そして、再び出会ったうさぎに、何も見付からなかったと嘘をつく。すると、うさぎは困っている友達を救おうと、たった二つしかない栗の実の一つをきつねに分け与える。きつねは、うさぎの思いやりの深さに心を打たれ、ぼろっと涙をこぼすという内容である。

きつねの行動を追いながら心情を掘り起こしていくことを通して、自己中心的な自分に気付かせ、友達を思いやり、仲よく助け合おうとする心情を育てるのに適した資料である。

(4) 研究との関連

	研究内容1	研究内容3
	体験活動を生かした指導の工夫	自己の心を見つめる場の工夫
具体的支援・指導	資料の登場人物の心情を共感的に理解させるために、動作化、役割演技を取り入れる。	価値に対しての自分の考えをもたせるために、「書く活動」を取り入れる。

(5) 指導にあたって

気づく段階では、「友達」について考えさせ、価値への方向付けを図りたい。

見つめる段階では、どの子も場面状況を確実に理解できるよう、ペープサートを使った語り聞かせによる資料提示をする。また、きつねがどんぐりを独り占めする場面では動作化を取り入れ、自分本位な考えを捉えさせていきたい。

つかむ段階では、きつねが栗の実を分け与えてもらう場面で「書く活動」と役割演技を取り入れる。うさぎの優しさから、自己中心的な自分に気付き、涙をこぼすきつねの心情に十分に共感させていきたい。きつねの心情を吹き出しに書かせ、自分の考えをしっかりとませてから役割演技をすることで、本時の価値を把握させたい。

広げる段階では、友達が困っているときに助けた経験や助けられた経験を発表し合い、自分の中にも友達を大切に、助け合おうとする気持ちが育っていることを自覚させたい。

まとめる段階では、困っている友達に優しくできた児童の話を紹介し、これからも友達を大切にしていこうとする意欲をもたせたい。

事後の活動としては、心のノートの「ともだちパワーをあつめよう」への取り組みを行う。帰りの会で集めたパワーを紹介し合うことで、友達と仲よくし、助け合おうとする意識を高めていきたい。

4 本時指導の位置付け

事 前 の 指 導	本 時 の 指 導	事 後 の 指 導
<p>○道徳 主題名 ともだちだから 価値 [友情・信頼、助け合い2-(3)] 資料名「二わのことり」 ねらい 仲よく助け合おうとする心情を育てる。</p> <p>○朝読書 友達をテーマとする本を読み聞かせ、友達の大切さ、よさを感じ取らせる。</p>	<p>○道徳 主題名 たすけあうところ 価値 [友情・信頼、助け合い2-(3)] 資料名「くりのみ」 ねらい 友達と仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。</p>	<p>○心のノート 「ともだちパワーをあつめよう」(P42～43) ・ 友達からもらった励ましやうれしかった言葉を記録する。 ・ 帰りの会の「かがやきタイム」で、集めたパワーを紹介し合う。</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

友達と仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動と主な発問	予想される発言や心の動き	指導上の留意点
気づく 5分	<p>1. 友達について話し合う。 ○「友達」とはどんな人のことだと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲よしの人。 ・ いつも一緒に遊ぶ人。 ・ 優しくしてくれる人。 ・ 困った時に助けてくれる人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「仲よし」「一緒に遊ぶ」「優しい」などをキーワードに、友達についての意識をもたせ、価値への方向付けを図る。

<p>見 つ め る</p> <p>つ か む</p> <p>30 分</p>	<p>2. 資料を読んで感想を出し 合い、学習の課題を確認す る。 ○主人公のきつねについて、 心に残ったことを発表し ましょう。</p> <div data-bbox="268 405 1018 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なみだをこぼしながら、きつねはどんなことをかんが えていたのでしょうか。</p> </div> <p>3. きつねの気持ちを中心に 考え、話し合う。 ○どんぐりをたくさん見付 けた時、きつねはどんな 気持ちだったのでしょ う。 ○おなかいっぱい食べた 後、どんな気持ちで残り のどんぐりを落ち葉で隠 したのでしょうか。 ○「何もなくてハラペコで す。」とうそをついたきつ ねは、どんなことを考え ていたのでしょうか。 ◎うさぎにもらった栗の実 を握り締め、涙をこぼし ながら、きつねはどんな ことを考えていたのでしょ う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きつねは、どんぐりを隠したか らいじわるだと思う。 ・きつねは、うさぎからくりのみ を一つもらって、うれしくて泣 いたと思う。 <div data-bbox="619 1122 1018 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎさんだっておなか がすいているのに、ぼくのた めに栗の実を分けてくれた んだ。 ・うさぎさんは友達なのに、 ぼくは自分のことしか考え ていなかった。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・よかった。助かった。 ・やっと食べ物が見つかった。 ・おなかいっぱい食べられるぞ。 ・これはぼくのものだ。 ・明日も食べられるぞ。 ・誰にも見付からないように隠し ておこう。 ・このどんぐりは誰にもあげたく ない。 ・ぼくのもの少なくなる。 ・うさぎさんにも秘密にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果音を使って冬の厳しさを 実感させる。 ・ペープサートを使った語り聞 かせによる資料提示を行い、 場面状況を確実に把握させ る。 ・感想の中から、きつねが涙を こぼしたところを取り上げ、 課題へとつなげる。 ・食べ物をやっと手に入れたき つねの喜びを押える。 ・動作化を行い、きつねがどん ぐりを独り占めしようとする 自分本位な考えを捉えさせ る。(研究内容1) ・友達のうさぎにさえ、どんぐ りをあげたくないと思い、う そをついてしまったきつねの ずるさを捉えさせる。 ・涙をこぼすきつねの心情を吹 き出しに書かせ、一人一人に 自分の考えをしっかりとまと せる。(研究内容3) ・吹き出しの内容をもとに役割 演技を行い、うさぎの思いや りの深さに心を打たれ涙ぐむ きつねの心情に共感させ、本 時の価値を把握させる。 (研究内容1)
<p>広 げ る</p> <p>5 分</p>	<p>4. 自分の生活を振り返り、 これまでの経験を発表す る。 ○きつねさんのように困っ ている時、友達に優しく してもらったことはあ りませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の後始末が遅くなったと き、代わりに片付けてくれた。 ・保健室で休んでいたとき、優し く声をかけてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中にも友達を大切に し、助け合おうとする気持ち が育っていることを自覚させ たい。
<p>ま と め る</p> <p>5 分</p>	<p>5. 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達っていいな。 ・これからも友達を大切にしてい こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達に優しくでき た児童の話を紹介し、これか ら友達を大切にしていこう とする意欲をもたせたい。

くりのみ

なみだをこぼしながら、きつねはどんなことを
かんがえていたのでしょうか。

どんぐりをたくさん

- ・よかった。たすかった。
- ・おなかいっぱいいたべられる。

・これはぼくのものだ。
・だれにもみつからないように
かくしておこう。

なにもみつきりません。

二つみつけたので
一つあげます。

- ・うさぎさんだっておなか
がすいているのに。
- ・ぼくはじぶんかってだ。

ともだちだもの